

5月23日（月）

おはようございます。

私は土曜日に東京にいかせていただき、慶応大学准教授の中室牧子先生の約二時間にわたる講演と、その後のディスカッションを聞くことができました。中室先生とは一度読売新聞で対談をさせていただきました。そういう関係で、主催者は能開センターのワオ・コーポレーションで、全国から130の大学の方々が来られていましたが、私だけ特別に中室先生に一時間ほどお時間を取っていただき、食事をしながらお話をさせてもらいました。

中室先生のお話に、ノーベル賞を取ったシカゴ大学のジェームズ・ヘックマン博士の研究のことがありました。ペリー幼稚園プログラムと言って、経済的に恵まれない児童の一部をランダムに選び、二年間教育を受けさせて、その後の40年間の追跡調査を行ったというものです。ペリー幼稚園プログラムを受けた子どもと、受けなかった子どもとで、どのような差が生まれたのかを研究したわけです。

例えば、東京大学の学生と名もない地方の私立大学の学生との、卒業後を比較してどちらの収入が多いかとかを調べても、この場合は初めから集団が違うわけで、どちらの収入が多いかは簡単に想像できることです。

それに対して、ヘックマンが行ったのは、どちらも同じように恵まれない境遇にある子どもで、一方はペリー幼稚園プログラムを受けた子どもと、そうでない子どもとの、その後を追跡調査した点が違うわけです。結果はどうだったかというと、ペリー幼稚園プログラムを受けた生徒の認知能力つまり学力に関しては、幼稚園を受けた効果は二年間だった。要するに小学校二年まではプログラムを受けた児童の方が良かった。しかし、小学校の三年生になったら差異が減少し、四年生になったらまったく差異がなくなったという。ですから、学力に関してはペリー幼稚園プログラムを受けた効果は二年しかなかった。

ところが、ペリー幼稚園プログラムを受けた子どもの四十年後はどうだったかというと、それ以外の子どもと違って、年収が高くて、社会的地位も高く、大学に進学した率も高くて、そして失業率は低かった。いったい何によってそのような差が生じたのか。それは認知能力ではなくて、非認知能力であったという。非認知能力とは何かというと、ペリー幼稚園プログラムで受けたしつけの教育と、倫理の教育であった。つまり、我慢すること、努力することの尊さや、何が正しくて何が間違っているかの倫理教育のことです。こういう

ことを学んだ結果、認知能力の方は二年間ほどしか効果がなかったけれども、非認知能力（正しい倫理観・我慢や努力の大切さ）のほうは、将来にわたって彼らの生活を保障したのです。この研究でヘックマンはノーベル賞を貰ったのです。

いつも言いますが、これからの社会は大変変化の激しい時代で、さまざまな情報が飛び交い、諸君にはある意味ではろくな情報が入ってこないのです。これは仕方のないことです。私たちよりも諸君の方がスマートフォンの使い方は上手です。コンピューターからさまざまな情報を取って、それに中毒になるような人もいますから。しかし、それらの情報に振り回されずに自分をしっかりと保っていけるかどうかということは、それまでに学んだ非認知能力の教育によるところが大きいのです。中室先生は大学に入ってから教育でも効果はないことはないが、それでは遅いとはっきりと言われます。本当は小学校のときからおこなった方がいいけれども、最低中学や高校のときに学ぶことが、人生全般にわたる大きな差になるということが四十年をかけた研究によって明らかになっているとも。だからいま清風で、正しい倫理観を持つことや、ひと月に一回は散髪しなさいと言われてたり、遅刻してはいけない等々うるさく言われたりする。また、ちょっとやんちゃなことをしたら、般若心経を書かされたりもします。これらは諸君がこの若い時期に、自己を抑制することや正しい倫理観をもつこと、核心に触れるまで努力を積み重ねていくことの大切さを、学力以外に毎日毎日朝礼に出てきて学ぶ必要があるという考えに基づいているのです。それは将来、諸君にとって絶対に効果があるのです、四十年以上も前にそういう効果があったわけですから。変化が激しく、さまざまな情報に振り回される時代にあっては、余計に清風の教育の効果はあるはずなのです。

中室先生は清風の教育をものすごく高く評価して下さいます。彼女は基本的に東京以外の仕事は受けません。私立中学校高等学校連合会が、大阪で何千人もの動員をかける私学フェアでの講演を依頼しましたが、彼女は断りました。しかし私が読売新聞の対談をお願いしたら来て下さいました。それは私個人の評価と言うよりも、清風が毎日行う生徒朝礼や、口やかましいしつけ教育が、21世紀の教育のあり方として、効果があると考えられているからなのです。

諸君たちもよく自覚して清風での生活を送ってもらいたい。一時代前は、いい大学に入っていい会社に就職すればそれで一生安定した生活が送れました。だからどういう大学に入るか、どういう会社に就職できるかが人生上の大きな基準だった。いまはそうではあり

ません。現在の中学一年生が憧れる職種で、彼らが社会人になるときには 66%がすでになくなっているとか、残った 34%の仕事の方も今の形のままではないだろうと言われます。こういう変化の激しい時代には、きっちりとした倫理観と、溢れる情報に惑わされない自分を持ち、また状況が変わっても努力を積み重ねて行ける尊さ等々をよく理解して身をもって体験しておくことが最も重要なのです。清風の教育で非認知能力を身につけることが、将来の諸君の人生に役に立つのです。清風の教育は、古いけれども新しい教育のやり方であり、公立ではなかなかできないと、しきりに中室先生はおっしゃっていました。

しんどいけれども将来必ず効果があらわれると信じて生活をしてもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長